

スピーキングのための  
やりなおし英文法  
スーパードリル

英語  
の  
ハノン  
初級

イギリス英語版



横山雅彦

筑摩書房

スピーキングのためのやりなおし英文法スーパードリル

# 英語のハノン 初級

イギリス英語版

横山雅彦

筑摩書房

## はじめに

『英語のハノン』は、僕の二つの夢を叶えてくれました。ひとつは、ジェリー・ソースさんが、「初級」(オリジナル版)のナレーターを引き受けてくださったことです。『英語バカのすすめ』(ちくまプリマー新書)でも書いているように、僕の英語人生は、中学3年生のとき、兵庫県三木市の中学生英語暗唱大会で優勝したことから始まります。中学に入学してすぐ、英語の発音に魅せられた僕は、両親に教科書の教師用(授業用)のカセットテープを買ってもらい、それをひたすら聞いて、音読の練習に打ち込みました。なかでも、とくに好きだったナレーターさんが、ジェリーさんです。僕の人生を変えることになる暗唱大会の課題に選んだのも、ジェリーさんが朗読する“Otoko-san and the Straw Coat”でした。2021年2月15日、東京神田のELEC録音スタジオで、ジェリーさんにはじめてお目にかかったときの感激は、生涯忘れることはありません。40年以上の歳月を経て、まったく変わらないキャンディボイスでした。

そして、『英語のハノン』が叶えてくれたもうひとつの夢が、このイギリス英語版を制作できたことです。やはり『英語バカのすすめ』に記したように、僕が高校2年生だった1981年の9月、文部省(当時)と外務省の英国人英語指導教員招致事業(British English Teacher Scheme)によって、1年間、スコットランドから兵庫県三木市の僕の高校にジャックリン・ローズという先生がやってきました。エディンバラ大学を卒業したばかりの、若くて可愛らしい女性でした。生徒のほぼ全員が生で外国人を見たことがないという田舎の県立高校です。まさに一大事でした。

僕たちは、彼女を「ジャッキーさん」と呼びました。ジャッキーさんとの思い出は数知れません。スピーチ大会のための原稿を、何度も見てもらったこと。モデルリーディングを録音させてもらい、毎日練習に付き合ってもらったこと。本番前には、日曜日まで社宅に押しかけて、発音指導を受けたこと。発音だけではなく、

話し方そのものが「そっくりだ」と、同じ招致事業で来日した他校のイングランドの男性教員がからかうほど、僕の英語はジャッキーさんの完コピになっていました。

僕は ESS (英会話クラブ) の部長として、文化祭ではジャッキーさんの指導で英語の紙芝居をしたり、ジャッキーさんと部員で神戸ポートピアランドに行ったり、ジャッキーさんがいた 1 年のあいだに、本当に多くのことを学びました。

1983 年に高校を卒業し、僕は親元を離れて京都外国語大学に進学しますが、実は、自分が使っている英語がイギリス英語なのだとということを、入部した ESS の先輩に指摘されるまで、まったく意識していませんでした。僕は、ジャッキーさんのためにも、大学でイギリス英語を極めようと決心しました。

その頃、イギリス英語の体系的な教材はリングフォンしかなく、また京都で洋書や語学教材を扱っていたのは四条河原町の丸善だけでした。リングフォンは、イギリス英語、アメリカ英語をはじめ、フランス語やドイツ語、中国語など、さまざまな外国語を取り揃えた音声教材として世界的に有名でしたが、非常に高価で、高校生や大学生には遠い存在でした。僕が欲しかったイギリス英語の中級を丸善に見に行ったところ、仕送り 1ヶ月分くらいはしたでしょうか。申し訳ない思いで下宿から母に電話をし、「お金を送ってほしい」と頼んだことを、よく覚えています。まだ CD はなく、カセット版です。もちろん、ウォークマンもありません。下宿で迷惑にならないよう、カセットプレイヤーでどれほど聞き込んだかわかりません。今でもその一節が口をついて出てくるほどです。すぐに ESS 内の僕のニックネームは、「ブリティッシュ」になりました。

そうして 1 年生の 6 月に出場した全日本学生英語弁論大会には、高校時代の同級生たちと一緒に、三木市の別の高校で教えていたジャッキーさんも応援に駆けつけてくれました。その年の夏休み、同じ仲間でジャッキーさんと神戸三宮に行き、公開されたばかりの映画『フラッシュダンス』を観たのが、ジャッキーさんとのお別れになりました。

当時の京都外大には、有名な英国人詩人であるジェイムズ・カーカップ先生や、司馬遼太郎さんの「街道をゆく 1」に誇り高い「オックスブリッジ語」(オックスフォード大学とケンブリッジ大学で使われている特別な英語) の話者として登場する日

本語学者のロジャ・メイチン先生がおられました。2年生になると、僕はジャッキーさん同様、カーカップ先生やメイチン先生にスピーチ大会の原稿を見ていただいたり、モデルリーディングを録音させていただいたりして、徹底的に真似をしました。

新しく引っ越した下宿の窓にユニオンジャック(イギリス国旗)を張ってカーテンがわりにしたほど、イギリス英語にのめり込んだ僕も、その後紆余曲折を経て上京、アメリカ研究をするために東京外国語大学の大学院に進学すると、自ら強く意識してアメリカ英語への修正を図りました。地域研究では、研究対象とする地域の言語を高度に習得することが第一の要件となるからです。しかし、それから30年以上経ってなお、アメリカ人と話すと「イギリスに住んでいたのか」と言われ、イギリス人と話すと「アメリカに住んでいたのか」と言われます。冗談のような話ですが、すべてが僕の英語学習の歴史の痕跡であると、むしろ誇らしい気持ちで、それを聞いています。

『英語のハノン』イギリス英語版を制作するにあたって、常に僕の心の中にあったのは、ただひたむきに、一心に、イギリス英語に向き合っていた、大学時代の自分です。あの頃の自分が、もしタイムスリップしてきたら、「これをやるといいよ」、そう言って勧めてあげられる、そんな教材にしたいと思いました。

ジャッキーさんやカーカップ先生、メイチン先生の英語からは遠ざかってしまったけれど、イギリス英語への思いは切です。僕にとってイギリス英語は、優しく温かく、その響きに触れると、思わず涙が込み上げてくる「ふるさと」のような存在です。ここに、エマ・ハワードさん、マイケル・リースさんの全面協力を得て、理想的なイギリス英語の教材が完成しました。イギリス英語に燃える大学1年生の僕なら、迷うことなくファーストチョイスにするでしょう。

あの日、母に「リングフォンを買ってほしい」と電話をした18歳の少年が、40年の歳月を経て、イギリス英語の音声教材を制作することになるとは、いったい、誰が想像できたでしょうか。

恩師と呼ぶには若すぎた、ジャッキーさんの笑顔が見えるようです。

# グローバル時代に イギリス英語を学ぶ意義

## アメリカ英語とイギリス英語

現在、英語は、世界の約 60 カ国で、公用語ないし準公用語として用いられています。まさに、世界でもっとも汎用性の高い「世界共通語」です。

英語には、大きく分けて「アメリカ英語」と「イギリス英語」があることは、今さら言うまでもありません。アメリカ英語は、もちろんイギリス英語がアメリカにおいて独自に発展したものです(アメリカ英語には、現代イギリス英語が失ってしまった古い要素がそのまま残っている側面もあり、必ずしもすべてにおいてアメリカ英語のほうが新しいとは限りません)。

かつて TOEIC® のリスニングでは、アメリカ英語のみが使われていましたが、2006 年以降、アメリカ英語を基本に(各パートの解説・指示、各設問の読み上げはアメリカ英語のまま)、イギリス英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語が加わって、5 種類の英語になりました(ニュージーランド英語をオーストラリア英語に含め、4 種類の英語とする人もいます)。とはいえ、カナダ英語はアメリカ英語とほとんど同じで、アメリカ人やカナダ人でさえ区別がつかないことがありますし、オーストラリア英語とニュージーランド英語は、イギリス英語とよく似ており、いわゆる「訛り」が出なければ、聞き分けることは困難です(たとえば Cultivated と呼ばれるもっともフォーマルなオーストラリア英語は、後述するイギリス英語の RP を強く意識しています)。ですから、やはり世界の英語は、大きくアメリカ英語とイギリス英語の二つに分けられると言っていいでしょう。

## 英語が「世界共通語」となった背景

英語が今日のような世界共通語となった背景には、17 世紀後半以降、イギリ

スが多く地域を植民地化し、文字通り七つの海を制した歴史があります。世界史では、イギリスが近代の覇権を握った19世紀半ばから20世紀初頭までを「パクス・ブリタニカ」の時代と呼びます。かつて「ユニオンジャックの上に太陽は沈まない」と言われました。ユニオンジャックとは、言うまでもなくイギリス国旗のことですが、その意味は、地球上のどこかで常にイギリス国旗が陽光を受けてはためいている、すなわち、それほどイギリス帝国の領土は世界各地に及んでいるということです。

第二次世界大戦後、次々と植民地が独立を果たしても、そこで今なお英語が使われているのは、パクス・ブリタニカの名残です（その英語は必然的にイギリス英語ということになります）。そして、さらに決定的に英語を世界共通語へと押し上げたのがアメリカです。

NHK「テレビ英語会話中級」講師も務めたアメリカ研究者の小浪充先生は、「功利主義文明」というパラダイムを提唱しておられます。約170年にわたりイギリスの植民地だったアメリカが独立するのは、1776年のことです。ちょうどこの年に、イギリスではアダム・スミスの『国富論』が出版され、同じくジェレミー・ベンサム「最大多数の最大幸福」の思想が体系を持って登場した頃、アメリカは世界初の成文憲法となる連邦憲法を制定しています。この意味で、アメリカはまさに「功利主義とともに生まれた国」でした。功利主義は自由主義の全面的開花ともいべき思想ですが、イギリスはその伝統文化が制約条件となって、実態面でこれを体現することはできませんでした。アメリカは中世ヨーロッパを捨てたがゆえに、逆説的に近代ヨーロッパを純粹体現することになるのです。

功利主義文明のチャンピオンであるアメリカは、ついに20世紀前半、イギリスから世界の覇者の座を奪い取ります。アメリカ文明という名の功利主義文明は、世界の大半を覆う「パクス・アメリカーナ」の時代として結実し、情報化時代の到来とともに、さらに進んで今日の「世界のアメリカ化」へとつながっていきました。「コカcolaニゼーション」や「マクドナルド化」などと呼ばれる世界の変化です。

この世界のアメリカ化は、世界中の人々の生活様式や思考様式だけでなく、英語そのものにも及んでいます。すなわち、「英語のアメリカ化」です。イギ

リス英語が話されているはずの旧植民地や、日本を含むそれ以外の地域(日本では、明治維新以後、イギリス英語が学ばれていましたが、第二次世界大戦後は、アメリカ英語が学ばれるようになりました)、さらには母国のイギリスにおいてさえ、アメリカ英語の影響が強く見られるようになってきました。より高度な情報化が進むにつれ、これからもアメリカ英語的な平準化傾向には、いっそう拍車がかかっているものと思われます。

## 「単語」と「スペリング」における違い

アメリカ英語とイギリス英語の違いとして、一般的によく語られるのは、「単語」と「スペリング」です(「文法」は、同じ英語である以上、基本的に変わりません。顕著に異なるとすれば「仮定法現在」くらいですが、これについては『英語のハノン/上級』14.2で詳しく説明しています)。単語であれば、たとえば「地下鉄」はアメリカ英語では subway で、イギリス英語では underground や tube、「2階」はアメリカ英語では second floor で、イギリス英語では first floor(1階は ground floor)など、そうした単語の違いから生じる両者の誤解をジョークにして、面白おかしく説明されたりします。スペリングも、realize(米)とrealise(英)、program(米)とprogramme(英)、labor(米)とlabour(英)、theater(米)とtheatre(英)などの違いがあるとされます。しかし、今日のイギリスでは、ごくふつうにアメリカ式の単語やスペリングも使われており、それらがもともとアメリカ英語だったとは知らない若者も多くなっています(少なくとも、イギリス人がアメリカ式の単語やスペリングを理解しないことはありません)。

TOEIC® のリスニングが、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの5カ国の英語で出題され、大きく分類すると、アメリカとカナダがアメリカ英語、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドがイギリス英語となることは、すでに述べた通りです。戦後日本の学校では、ほとんど独占的にアメリカ英語が教えられていますから、みなさんの中には、きっと「イギリス英語のパートが苦手」という方も多いのではないのでしょうか。

実は、TOEIC® の問題で使われる単語・スペリング・文法は、すべてアメリカ



英語で統一されています。だとすれば、リスニングのイギリス英語パートを難しく感じる理由は、単語・スペリング・文法以外のところにあるはずで。それは何か。「アクセント」です。ここで言うアクセントとは、イントネーションも含めた「発音の仕方」のことです。そして、このアクセントこそ、アメリカ英語とイギリス英語を差異化するものであり、イギリス英語をイギリス英語ならしめる最大の特徴です。

## 「アクセント」における違い

アメリカは非常に広大な国ですが、ごく一部の方言を除いて、大きな地域差はありません。アメリカ全土で広範囲に話されている英語を「GA」と呼びます。General American (一般米語) の略で、大多数のアメリカ人が使っているとされます。『英語のハノン』のアメリカ英語版で用いられているのも、もちろん GA です。

一方、イギリス英語は地域差が非常に大きく、さまざまな変種があります。さらに、イギリス英語がアメリカ英語と異なっているのは、その発音がイギリス国内の社会階級の指標にもなっているということです。従来、標準的なイギリス発音とされてきたのが Received Pronunciation (容認発音) で、「RP」と略されます。「BBC 英語」や「キングズ・イングリッシュ」(女王統治下では「クイーンズ・イングリッシュ」) などと呼ばれるものです。RP は posh な(アッパー・クラスの)アクセントとされますが、実は今日のイギリスにおいて、RP を使っている話者は、人口のわずか数パーセントにすぎません。

2019 年に出版された Geoff Lindsey の *English After RP: Standard British Pronunciation Today* では、新たなイギリス英語の標準発音として「SSB」(Standard Southern British pronunciation) という呼称が提唱されています。Lindsey によれば、SSB はイングランド南部のミドル・クラスないしアッパー・ミドル・クラスのアクセントで、近年、イギリスにおける公の場やテレビ番組・映画で使われているのは、伝統的な RP ではなく、SSB だということです。

もともと「アッパー・クラス」を意味する posh が「気取っている」という嫌味で

用いられ、イギリス国内で RP がしばしば嘲笑の対象になるというのは、よく聞く話です。王室においてすら、チャールズ現国王は RP でも、ウィリアム王子やヘンリー王子はすでに SSB だと言われます。RP から SSB への変化の要因のひとつとして、*English After RP* は、アメリカ文化の世界への影響に言及しています。

ビートルズやオアシスなど、イギリス出身のミュージシャンたちが、アメリカ発音で歌を歌っていることは、よく知られています。ビートルズの「Let It Be」では、「レリビー」と、本来イギリス英語では起こらないはずのフラッピングが使われていますし、オアシスの「Whatever」も「ワレヴァー」とフラッピングしている上に、表現面では shoot the breeze という米口語が使われています (shoot the breeze を日本語に訳すなら、「油を売る」くらいでしょうか。「無駄話をしてダラダラする」という意味です)。

ビートルズが「Let It Be」をリリースしたのは 1970 年ですが、アメリカ発音で歌わなければ音楽もヒットしないほど、すでにその頃には、世界のココロニゼーションやマクドナルド化は進んでいたということです。もちろん、イギリス発音にこだわるイギリス人ミュージシャンもいますが、やはりマイナーです。

TOEIC® のリスニング対策でお決まりのように取り上げられる単語に、schedule があります。TOEIC® では、schedule をアメリカ人とカナダ人のナレーターには /skédʒu:l/ (スケジュール)、イギリス人、オーストラリア人、ニュージーランド人のナレーターには /ʃédʒu:l/ (シェジュール) と発音させています (公式に発表されているわけではありませんが、TOEIC® Program を作成するアメリカのテスト開発機構 ETS の方針であるようです)。確かに、RP では /ʃédʒu:l/ なのですが、各出版社が TOEIC® 対策用のリスニング教材を制作する際、むしろ若いイギリス人の中に、それを嫌がるナレーターが少なくありません。「自分はそんな発音はしない、/skédʒu:l/ と発音したい」というのです。often も、かつてはステレオタイプに /ɔ:ftən/ (オフトゥン) と /t/ を発音するのがイギリス英語だとされましたが、/ɔ:fən/ (オフン) と発音することもふつうになっています。イギリス英語では library を /laɪbrɪ/ (ライブリ) と発音するというのも同じことです。

## 世界でもっとも魅力的な英語のアクセント .....

以上のようなイギリス英語の変化を考えると、実際には、アメリカ英語をしっかりマスターすれば、まずイギリス英語話者とのコミュニケーションには困らないと言えます。それにもかかわらず、『英語のハノン』イギリス英語版を制作しようとした理由は、非ネイティブとしてイギリス英語を学習する際の信頼できる音声を準備しておくことが、どうしても必要だと考えたからです。

*English After RP* を読んでみると、正直「イギリス英語の変容もここまでできたのか」という感慨を抱かざるを得ません。しかし、日本には、アメリカ英語よりもイギリス英語に憧れ、熱心に学んでいる人が数多くいます。彼らのイギリス英語への思いは、*English After RP* に記されるイギリス国内の発音事情とは、ほとんど無縁のものです。すなわち、上品で格調高い正統的な RP にこそ、彼らは惹かれているのです。

日本だけではありません。2018年の「CEOWORLD」誌の調査で、イギリス英語が「世界でもっとも魅力的な英語のアクセント」に選ばれました。もちろん、そこで選ばれたのは、アメリカ英語化しつつある近年のイギリス英語ではなく、イギリス国内では *posh* とされる RP です。

すでに述べたように、パクス・ブリタニカの名残として、世界中の多くの国でイギリス英語が話されていますが、そこでの「学校教育」で教えられているのは、伝統的な RP です。ヨーロッパ全域で使用されている英語も、さらには国連が公用語とする英語も、やはり RP です。

非ネイティブとして日本人がイギリス英語を学ぶ場合もまた、今まさに変化のただ中にある SSB とは一定の距離を取り、あくまで RP を基本の「型」とすべきでしょう。その上で、現在進行形のイギリス英語の現状を知る、という態度こそ、非ネイティブ学習者が取るべきものだと思います。ただし、RP は「教養ある知識人の英語」ですから、それにふさわしい態度が必要だということも、RP を話そうとする者は、決して忘れてはなりません。

## 『英語のハノン／初級』イギリス英語版が目指したもの……………

最近では、EIL (English as an International Language) や World Englishes という概念がよく聞かれるようになりました。それぞれ「国際語としての英語」、「世界諸英語」と訳されます。これらに共通する考え方は、ブローケンでも通じさえすればよく、ネイティブ発音を目指す必要はない、というものです。しかし、ブローケンでもよいという姿勢で(日本語母語話者の場合は「カタカナ英語」のままで) 英語学習をして、本当に通じる英語が話せるようになるのでしょうか。疑問を抱かずにはられません。

1989年のNHK「テレビ英語会話Ⅱ」で、講師の東後勝明先生が世界的英語学者のランドルフ・クーク先生をゲストに迎え、英語教育をテーマに対談しておられます。そこでクーク先生は“The objective of the Japanese learners of English is to learn a native variety. No question about it.”(日本人英語学習者の目的はネイティブ英語を学ぶことです。そのことに疑いはありません)と述べ、a native variety を具体的に「アメリカ英語かイギリス英語」と定義しておられます。ネイティブ英語を学ぶ過程で、日本人としてのクセや訛りが出てしまうことは仕方がないとしても、最初から Japanese English でいいなどと妥協してはならない、とおっしゃるのです。

これは、決して「ネイティブ・スピーカー・シンドローム」などと呼ばれるナイーブなネイティブ崇拝ではありません。戦後の日本から出た多くの英語達人は、みなネイティブ英語を徹底的に学んでいます。しかし、その英語がどれほど流暢でも、そこにはかすかに日本語のアクセントが残っています(帰国子女を除いて、それを免れた日本人を、少なくとも僕は知りません。だからこそ、英語の発音学習はロマンなのです)。

最初からカタカナ英語でいいなどどうそぶくのではなく、ネイティブ英語を極めようとしたその先に、自然に出てくる日本語のアクセントは、むしろインテグリティ(誠実さ)の証として、とても好意的に受け止められます。そして、それ以上に、本当に自らの人格をあげて英語を話そうとするなら、その英語には、アクセントだけではなく、必ず日本人としての「個性」がにじみ出るものです(本来、日

本の「国の個性」を英語に乗せることは不可能で、そのための英語表現を模索せざるを得ないからでしょう)。それこそが、本当の Japanese English であり、Japanese variety であると、僕は思います。

『英語のハノン／初級』には、ジェリー・ソーレスさんとダニエル・ダンカンさんによる素晴らしいアメリカ英語 (GA) の音声があります。しかし、それだけでは、「アメリカ英語かイギリス英語」というクワーク先生の提言に照らしても、英語音声教材としての画竜点睛を欠いてしまう。そのような思いから、イギリス英語版は企画されました。

そこで僕が目指したのは、現在進行形の SSB ではなく(もちろんその動向は十分に踏まえながら)、日本人にとっての「お手本」となるイギリス英語 (RP) を提示することでした。そして、それには『英語のハノン』のドリルこそ、格好の素材でした。『英語のハノン』は、英文法の全体系をほぼ遺漏なく扱っている——つまり、ありとあらゆる英文のパターンを扱っている教材だからです(発音とイントネーションの基本のトレーニングとしては、「単文」の全パターンを網羅する「初級」が最適、かつもっとも重要です)。ここに BBC でも仕事をしたことのある理想的な RP 話者、エマ・ハワードさんとマイケル・リースさんをナレーターにお迎えし、それを実現できたことを、心から嬉しく思います。

## 『英語のハノン／初級』イギリス英語版の特徴 .....

この音声は、『英語のハノン／初級』をイギリス英語によって読み上げたものです。基本的に、アメリカ英語とイギリス英語に文法の大きな違いはありませんから、書籍(テキスト)はアメリカ英語版と共通です。ナレーターのエマさん、マイケルさんと一つ一つ丁寧に話し合いながら、次の点に留意して制作しました(2.と3.に関しては、「変更点一覧」参照)。

1. 発音は、原則として RP (Received Pronunciation／容認発音) に従った。現代イギリスの発音事情を鑑み、あまり posh になりすぎず、日本人が「お手本」とできるイギリス英語発音 (RP) を目指した。

2. アメリカ英語と異なるとされる単語やスペリング、表現は、原則としてイギリス風に改めた。
3. テキストで使われておらず、発音がアメリカ英語と異なるとされる単語に関しては、可能な範囲で一部のドリルを変更し、練習できるようにした。

アメリカ英語音声同様、すべての英文にスロースピードとナチュラルスピードを用意したことも、音声教材として画期的な点です。TOEIC® や TOEFL® の対策はもちろん、イギリス英語を中心に行われる IELTS™ やケンブリッジ英検の対策としても、格好の教材となるはずです。

好むと好まざるとにかかわらず、戦後の日本にとって、アメリカは唯一の同盟国であり、日本でアメリカ英語が学ばれているのは、むしろあたりまえのことです。しかし、そのような環境のなか、イギリス英語を志向する英語学習者がその発音とイントネーションを保つのは、想像をはるかに超えて困難です。『英語のハノン』の音声は、「初級」で約 10 時間という、他に類を見ないものです。これだけの量の英語をインプットし、ひたすらアウトプットすれば、否が応でも、イギリス英語の発音とイントネーションが血肉化するでしょう。この音声は、イギリス英語に憧れるすべてのみなさんのお役に立てることを、心から祈っています。

# 『英語のハノン／初級』イギリス 英語版を学習する際の主な注意点

『英語のハノン』の主役は音声です。長々とした説明を読むよりも、エマ・ワードさん、マイケル・リースさんの美しい発音を身体で感じ取ってくださればいいのですが、以下、イギリス英語版で学習する際に最低限気をつけておくべきことを、なるべく音声学の専門用語は使わず、簡潔に列記します(cf.として挙げた例は、ほんのごく一部です)。

## 1. can't は /kɑ:nt/ .....

アメリカ英語の /æ/ (「ア」と「エ」の中間音)の一部は、イギリス英語では /ɑ:/ (大きく口を開き伸ばす「アー」)になります。can't はその代名詞で、これを /kɑ:nt/ と発音するだけで、とりあえず「イギリス英語を勉強しているのですか?」と言ってもらえます。さしずめ、イギリス英語の「はじめの一步」でしょうか。ただし、例外もたくさんありますので、エマさん、マイケルさんの発音をよく聞いて、練習しましょう。

- cf.    Track No. Unit 1.8    5) last  
       Track No. Unit 3.7    3) can't  
       Track No. Unit 7.6    2) after  
       Track No. Unit 8.1    3) castle  
       Track No. Unit 17.2 1) dancing

## 2. /ou/ は鼻にかけた /əu/ に(嫌味にならない程度に) .....

アメリカ英語の /ou/ は、RP では少し鼻にかけて /əu/ と発音されます。昔

から、この音を大きめに鼻にかけるのが RP のパロディのお約束です。最近の RP では、やや控えめに発音されるようになっており、エマさん、マイケルさんとも、極端には強調していません。どちらかと言えば、エマさんのほうが /əu/ になる傾向がありますが、決して嫌味ではない程度です。よく聞いて、しっかり練習してください。

- cf. Track No. Unit 1.9 3) go
- Track No. Unit 2.2 4) owner
- Track No. Unit 3.7 4) coat
- Track No. Unit 6.2 3) over
- Track No. Unit 12.4 5) alone

### 3. /ɑ/ は /ɔ/ に .....

アメリカ英語の /ɑ/ (大きく口を開けた「ア」) は、RP では /ɔ/ (大きく口を開けた「オ」) になります。

- cf. Track No. Unit 0.15 3) top
- Track No. Unit 1.5 1) not
- Track No. Unit 4.2 5) college
- Track No. Unit 15.2 3) lot
- Track No. Unit 18.2 1) got

### 4. 母音の後の /r/ に「そり舌音」を使わない .....

アメリカ英語では、母音の後の /r/ にいわゆる「そり舌」が使われますが、イギリス英語では使われません。これもイギリス英語の基本中の基本とも呼ぶべき特徴ですから、エマさん、マイケルさんの発音をよく聞き、常に意識して練習しましょう。

- cf. Track No. Unit 1.3 5) car
- Track No. Unit 5.4 3) heart



Track No. Unit 7.3 3) door

Track No. Unit 17.2 1) girl

Track No. Unit 19.3 1) dark

## 5. Yes/No 疑問文は文末を下げる .....

アメリカ英語では、Yes/No 疑問文には rising intonation (文末を上げるイントネーション)が使われますが、イギリス英語では falling intonation (文末を下げるイントネーション)が基本です。これは、否定疑問文(12.6)や付加疑問文(12.7-12.8)も同じです。SSBを使う若いイギリス人を中心に、rising intonation もよく聞かれるようになりましたが、この音声では、エマさん、マイケルさんとも話し合い、すべて falling intonation で統一しています。

ちなみに、TOEIC® では、5ヶ国(アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド)すべてのナレーターが、基本的に rising intonation を使っています(公表されているわけではありませんが、そのように決められているようです)。イギリス英語を学ぶ際の音声としては、少し気をつける必要があります。

## 英音法 (Unit 0 参照) .....

### 0.2.1 リンキング (linking)

イギリス英語でも使われます。

### 0.2.2 アシミレーション (assimilation)

イギリス英語でも使われますが、エマさん、マイケルさんとも、アシミレーションが生じている箇所と生じていない箇所があります。起こったり起こらなかったり、強く起こったり弱く起こったりするのは、アメリカ英語と同じです。

### 0.2.3 フラッピング (flapping)

イギリス英語では「フラッピング」は使わず、/t/ を強くはっきり発音します。

#### 0.2.4 エリジョン (elision)

イギリス英語でも使われますが、0.2.4.2 のエリジョン (/n/ に /t/ が続いた際の /t/ の脱落) はイギリス英語では起こりません。

#### 0.2.5 ウィークニング (weakening)

基本的に、イギリス英語では起こりません。エマさん、マイケルさんともに、ナチュラルスピードでも比較的はっきり発音しています。

#### 0.2.6 ネイザル・リリース (nasal release)

イギリス英語でも使われますが、エマさん、マイケルさんとも、ネイザル・リリースが生じている箇所と生じていない箇所があります。起こったり起こらなかったり、強く起こったり弱く起こったりするのは、アメリカ英語と同じです。

### 単語

●以下の単語は、イギリス英語で多用される発音で読まれています。

**advertisement** /ædvɜːtáɪzmənt/ (米) /ædvɔːtɪsmənt/ (英)

※ストレスの位置も異なることに注意してください。

**direct** /dərəkt/ (米) /daɪrɛkt/ (英)

※ direction、director も第1音節の母音は /aɪ/ となります。

**herb** /ɜːrb/ (米) /hɜːb/ (英)

**library** /láɪbrəri/ /láɪbrɛri/ (米) /láɪbrɪ/ (英)

**often** /ɔːfən/ (米) /ɔːftən/ (英)

**schedule** /skédʒuːl/ (米) /ʃédʒuːl/ (英)

**simultaneous** /sàɪmáltéɪniəs/ (米) /sɪmáltéɪniəs/ (英)

**tomato** /təméɪtu/ (米) /təmáːtəu/ (英)

**vase** /véɪs/ (米) /váːz/ (英)

**vitamin** /váɪtəɪn/ (米) /vítəɪn/ (英)

●以下の単語は、イギリス英語で多用されるストレスで読まれています。

**adult**

アメリカ英語では第2音節、イギリス英語では第1音節にストレスが置かれるのがふつうです。

**research (名)**

アメリカ英語では第1音節、イギリス英語では第2音節にストレスが置かれるのがふつうです。

**数字**.....

数字が100を超えると、イギリス英語では and が使われます。

108 a (one) hundred eight (米) a (one) hundred and eight (英)

365 three hundred sixty-five (米) three hundred and sixty-five (英)

2004 two thousand four (米) two thousand and four (英)

cf. Track No. Unit 10.7 2)

# 変更点一覧

## Unit 0 / 基礎の確認(品詞/英音法) .....

p.19



a) I'll stand in line.



a) I'll stand in the queue.

▶イギリス英語では、in line を in the queue と表現します。



1) I'm from America.



1) I'm from the U.K.

▶イギリス英語版ですので、America を the U.K. に変更しました。

p.25



5) He definitely wanted to watch the new movie.



5) He definitely wanted to watch the new film.

▶イギリス英語では、「映画」にはふつう movie ではなく film が使われます。



▶イギリス英語ではフラッピングは起こらないため、②のネイザル・リリースのみとなっています。スロースピードではネイザル・リリースは使わず、ナチュラルスピードではネイザル・リリースを使って読まれています。



▶イギリス英語ではフラッピングは起こらないため、ネイザル・リリースの練習のみとなります。スロースピードではネイザル・リリースは使わず、ナチュラルスピードではネイザル・リリースを使って読まれています。3)の mountain にはナチュラルスピードでもネイザル・リリースは使われていません。

Unit 1 / 第 1 文型 (SV) ・ 現在形 .....



Key Sentence:

She's into the oldies these days. (I)

彼女は最近オールディーズ (1960 年代のアメリカの音楽) にハマっている。

- 1) I'm into the oldies these days. (They)  
私は最近オールディーズにハマっている。
- 2) They're into the oldies these days. (He)  
彼らは最近オールディーズにハマっている。
- 3) He's into the oldies these days. (into soccer)  
彼は最近オールディーズにハマっている。
- 4) He's into soccer these days. (in shape)  
彼は最近サッカーにハマっている。

5) He's in shape these days.

彼は最近体調がいい。



Key Sentence:

She's into herbal tea these days. (I)

彼女は最近ハーブティーにハマっている。

1) I'm into herbal tea these days. (They)

私は最近ハーブティーにハマっている。

2) They're into herbal tea these days. (He)

彼らは最近ハーブティーにハマっている。

3) He's into herbal tea these days. (into football)

彼は最近ハーブティーにハマっている。

4) He's into football these days. (in shape)

彼は最近サッカーにハマっている。

5) He's in shape these days.

彼は最近体調がいい。

▶この変更は、herbal の発音を練習するためのものです。アメリカ英語では /*á:rb/*、イギリス英語では /*há:b/* となります。「上級」Track No. Unit 1.4 4) の herb の発音を聞いてもわかるように、herb や herbal の最初の /*h/* をアメリカ英語では発音しない場合が多いのに対して、イギリス英語では発音します。

また、soccer が football に変わっています。基本的に「サッカー」は、アメリカ英語では soccer、イギリス英語では football です。



5) I'm into baseball. (negative)

私は野球にハマっている。

→ I'm not into baseball.

私は野球には興味がない。

↓

5) I'm into football. (negative)

私はサッカーにハマっている。

→ I'm not into football.

私はサッカーには興味がない。

▶ **Unit 0.3 b)** で Did you watch the baseball game on Friday? という文が出てきましたが、イギリス(というよりヨーロッパ)では、野球はメジャースポーツではなく、WBC 開催中ですら、会話の話題になることはほとんどありません。イギリスでもっとも人気のあるスポーツは football です。実は、アメリカでもっとも人気のあるスポーツも、野球ではなく、football です。ただし、それぞれに指すスポーツが異なります。Unit 1.2 でも解説したように、football は、イギリス英語では「サッカー」、それに対して、アメリカ英語では「アメリカンフットボール」(American football)を意味します。

このドリルでは、baseball を football に変えて練習してみましょう。



1) I belong to the tennis club. (question)

私はテニス部に所属している。

→ Do you belong to the tennis club?

あなたはテニス部に所属しているのですか？

↓

1) I take vitamins every day. (question)

私は毎日ビタミンを摂っている。

→ Do you take vitamins every day?

あなたは毎日ビタミンを摂っているのですか？

▶この変更は、vitamin の発音を練習するためのものです。アメリカ英語では /váitəˈmɪn/、イギリス英語では /vítəˈmɪn/ となります。

## Unit 2 / 第 2 文型 (SVC) ・ 過去形 .....

p.56



1) I fell asleep during the movie. (negative)

→ I didn't fall asleep during the movie.

↓

1) I fell asleep during the film. (negative)

→ I didn't fall asleep during the film.

## Unit 3 / 第 3 文型 (SVO) ・ 現在進行形 / 助動詞 .....

p.66



3) They're organizing a big event. (question)

→ Are they organizing a big event?

↓

3) They're organising a big event. (question)

→ Are they organising a big event?



▶ organize をイギリス英語では organise と綴ります(これは発音ではなくスペリングの問題です)。

5) Nora is practicing judo now. (question)

➔ Is Nora practicing judo now?

↓

5) Nora is practising judo now. (question)

➔ Is Nora practising judo now?

▶ practice をイギリス英語では practise と綴ります(これは発音ではなくスペリングの問題です)。

p.74



1) The sequel to the movie will attract large audiences. (negative)

➔ The sequel to the movie won't attract large audiences.

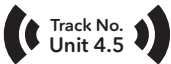
↓

1) The sequel to the film will attract large audiences. (negative)

➔ The sequel to the film won't attract large audiences.

Unit4／第4文型(SVOO) .....

p.84



5) He always asks me unreasonable favours. (change)

➔ He always asks unreasonable favours of me.

↓

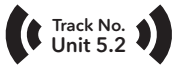
5) He always asks me unreasonable favours. (change)

→ He always asks unreasonable favours of me.

▶ favor をイギリス英語では favour と綴ります (これは発音ではなくスペリングの問題です)。

## Unit 5 / 第 5 文型 (SVOC) .....

p.90



5) Citizens stayed home on the weekend. (The governor encouraged)

住民は週末家にいた。

→ The governor encouraged citizens to stay home on the weekend.

知事は、住民に週末家にいるよう勧めた。

↓

5) Citizens stayed home on the weekend. (The mayor encouraged)

住民は週末家にいた。

→ The mayor encouraged the citizens to stay home on the weekend.

市長は、住民に週末家にいるよう勧めた。

▶ イギリスには制度上 governor (知事) の役職はないので、主語を major (市長) に変更しました。

p.97



3) We witnessed a truck tailgating a red car. (change)

→ We witnessed a red car being tailgated by a truck.

↓

3) We witnessed a lorry following a red car too closely. (change)

→ We witnessed a red car being followed too closely by a lorry.

▶基本的に、「あおり運転する」という意味の tailgate は、アメリカ英語表現です（ただし、イギリス人にも通じます）。イギリス英語にはこれに当たる動詞がなく、follow ~ too closely としました。

また、イギリス英語では、「トラック」にはふつう truck ではなく lorry が使われます。

## Unit 6 / 疑問詞 (1) 疑問代名詞 .....

p.104



5) They're my neighbors. (question)  
→ Are they your neighbors? (Who)

↓

5) They're my neighbours. (question)  
→ Are they your neighbours? (Who)

▶ neighbor をイギリス英語では neighbour と綴ります（これは発音ではなくスペリングの問題です）。

p.108



5) I'll meet with my client this afternoon. (question)  
→ Will you meet with your client this afternoon? (Who)  
→ Who will you meet with this afternoon? (With whom)  
→ With whom will you meet this afternoon?

↓

5) I'll meet my client this afternoon. (question)

→ Will you meet your client this afternoon? (Who)

→ Who will you meet this afternoon?

▶イギリス英語では meet with を「人」には使いません。「事故」や「困難」に使われる表現ですので、meet に変更し、このドリルのみ **Two-Step** になります。

p.115



4) The five-story building is my apartment. (Which)

その 5 階建ての建物が私のアパートだ。

→ Which is your apartment?

どれがあなたのアパートですか？

↓

4) The five-story building is my flat. (Which)

その 5 階建ての建物が私のアパートだ。

→ Which is your flat?

どれがあなたのアパートですか？

▶基本的に、日本語の「アパート」や「マンション」は、アメリカ英語では apartment、イギリス英語では flat です(アパートとマンションの区別は、英語にはありません)。

なお、英語の mansion は「大きな一軒家」を指しますので、注意しましょう。

5) Green is my favorite color. (What)

→ What is your favorite color?

↓

5) Green is my favourite colour. (What)

→ What is your favourite colour?

▶ favorite, color をイギリス英語ではそれぞれ favourite, colour と綴ります(こ

これは発音ではなくスペリングの問題です。

p.119



- 2) She's practicing the piano for her friend's wedding party. (question)
- ➔ Is she practicing the piano for her friend's wedding party? (What)
  - ➔ What is she practicing the piano for? (For what)
  - ➔ For what is she practicing the piano?

↓

- 2) She's practising the piano for her friend's wedding party. (question)
- ➔ Is she practising the piano for her friend's wedding party? (What)
  - ➔ What is she practising the piano for? (For what)
  - ➔ For what is she practising the piano?

## Unit 7 / 疑問詞 (2) 疑問形容詞・疑問副詞 .....

p.122



- 3) Brown is in fashion this year. (What color)
- ➔ What color is in fashion this year?

↓

- 3) Brown is in fashion this year. (What colour)
- ➔ What colour is in fashion this year?

- 5) Soccer is popular in this country. (What sport)

↓

- 5) Football is popular in this country. (What sport)

p.124

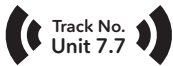


- 5) She painted the wall green. (question)
- ➔ Did she paint the wall green? (What color)
  - ➔ What color did she paint the wall?

↓

- 5) She painted the wall green. (question)
- ➔ Did she paint the wall green? (What colour)
  - ➔ What colour did she paint the wall?

p.134



- 3) They canceled the picnic due to heavy rain. (question)

↓

- 3) They cancelled the picnic due to heavy rain. (question)

▶ canceled をイギリス英語では cancelled と綴ります (これは発音ではなくスペリングの問題です)。

p.140



- 5) Eight movies are currently showing at the movie theater complex.  
(How many movies)
- ➔ How many movies are currently showing at the movie theater complex?

↓

5) Eight films are currently showing at the cinema complex. (How many films)

➔ How many films are currently showing at the cinema complex?

▶イギリス英語では、ふつう「映画館」を cinema と呼びます。

## Unit 8 / 受動態 (1) .....

p.145



4) The drugstore chain sponsors some TV programs. (change)

➔ Some TV programs are sponsored by the drugstore chain.

↓

4) The chemist chain sponsors some TV programmes. (change)

➔ Some TV programmes are sponsored by the chemist chain.

▶イギリス英語では、「ドラッグストア」にはふつう drugstore ではなく chemist が使われます。

また、program をイギリス英語では programme と綴ります (これは発音ではなくスペリングの問題です)。

## Unit 10 / 現在完了形 (1) <継続> / 現在完了進行形 .....

p.167



1) He's playing soccer. (since early morning)

➔ He's been playing soccer since early morning.

↓

1) He's playing football. (since early morning)  
→ He's been playing football since early morning.

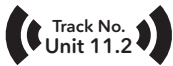
3) She's practicing the piano. (since 1 p.m.)  
→ She's been practicing the piano since 1 p.m.

↓

3) She's practising the piano. (since 1 p.m.)  
→ She's been practising the piano since 1 p.m.

## Unit 11 / 現在完了形(2)〈完了(結果)・経験〉

p.177



4) I didn't get a driver's license last month. (yet)  
私は先月運転免許証を取得しなかった。  
→ I haven't got a driver's license yet.

↓

4) I didn't get a driver's licence last month. (yet)  
私は先月運転免許証を取得しなかった。  
→ I haven't got a driver's licence yet.

▶ license をイギリス英語では licence と綴ります (これは発音ではなくスペリングの問題です)。



## Unit 12 / 命令文・否定疑問文・付加疑問文

p.194



▶ イギリス英語では、Yes/No 疑問文の基本は falling intonation (文末を下げるイントネーション) ですから、付加疑問文にも rising intonation (文末を上げるイントネーション) はありません。したがって、Track No. Unit 12.7 は、「念押し」のみの **One-Step Drill** になります。「change」と聞こえたら、付加疑問文を作り、文末を下げて言いましょう。

3) Carole has a diving license.

→ Carole has a diving license, doesn't she?

↓

3) Carole has a diving licence.

→ Carole has a diving licence, doesn't she?

p.196



▶ Track No. Unit 12.7 同様、Track No. Unit 12.8 も「念押し」のみの **One-Step Drill** になります。「change」と聞こえたら、付加疑問文を作り、文末を下げて言いましょう。

## Unit 13 / 不定詞 (1) 名詞的用法

p.206



- 4) We expect it. (get a salary increase)

私たちはそれを期待している。

➔ We expect to get a salary increase.

私たちは給料をあげてもらうことを期待している。

↓

- 4) Teenagers expect it. (be treated like adults)

ティーンエイジャーはそれを期待している。

➔ Teenagers expect to be treated like adults.

ティーンエイジャーは大人のように扱われることを期待している。

▶この変更は、adult のストレスを練習するためのものです。「中級」Track No. Unit 1.6 5) や Track No. 12.8 5) の adult の発音を聞いてもわかるように、アメリカ英語では第2音節にストレスを置くのに対して、イギリス英語では第1音節にストレスを置くのがふつうです。

ちなみに、teenager は慣用的に「10代」と訳して構いませんが、厳密には teen がつく年齢(13歳から19歳まで)を指す語です。

## Unit 14 / 不定詞 (2) 不定詞と動名詞

p.216



- 3) She doesn't mind it. (work for a low salary)

彼女はそれをいとわない。

→ She doesn't mind working for a low salary.

彼女は安月給で働くことをいとわない。

↓

3) She doesn't mind it. (appear in the company's advertisement for free)

彼女はそれをいとわない。

→ She doesn't mind appearing in the company's advertisement for free.

彼女はタダで会社の広告に出ることをいとわない。

▶この変更は、advertisement の発音を練習するためのものです。アメリカ英語では /ədˈvɜːtáɪzmənt/、イギリス英語では /ədˈvɜːtɪsmənt/ となります。ストレスの位置も変わることに注意してください。

p.219



2) Andy apologized for turning down her invitation. (accept her invitation)

→ Andy apologized for not accepting her invitation.

↓

2) Andy apologised for turning down her invitation. (accept her invitation)

→ Andy apologised for not accepting her invitation.

▶ apologize をイギリス英語では apologise と綴ります (これは発音ではなくスペリングの問題です)。

## Unit 15 / 不定詞(3) 形容詞的用法

p.228



- 5) The governor made a pledge. It was to ease the morning rush hour overcrowding. (change)

知事は公約した。それは朝のラッシュアワーの混雑を緩和することだった。

- ➔ The governor made a pledge to ease the morning rush hour overcrowding.

知事は朝のラッシュアワーの混雑を緩和する公約をした。

↓

- 5) Department for Transport made a pledge. It was to ease the morning rush hour overcrowding. (change)

運輸省は約束した。それは朝のラッシュアワーの混雑を緩和することだった。

- ➔ Department for Transport made a pledge to ease the morning rush hour overcrowding.

運輸省は朝のラッシュアワーの混雑を緩和する約束をした。

- ▶ イギリスには制度上 governor (知事) の役職はないので、主語を Department for Transport (運輸省) に変更しました。

## Unit 16 / 不定詞(4) 副詞的用法

p.238



- 5) He joined the full marathon but only gave up in 30 minutes.  
(change)

彼はフルマラソンに参加したが、30分で棄権した。

- ➔ He joined the full marathon, only to give up in 30 minutes.  
彼はフルマラソンに参加したが、30分で棄権した。

↓

- 5) He tried the extreme tomato diet for a few days but only ended up impairing his health.  
(change)

彼は過激なトマトダイエットを2、3日試したが、結局健康を害してしまった。

- ➔ He tried the extreme tomato diet for a few days, only to end up impairing his health.  
彼は過激なトマトダイエットを2、3日試したが、結局健康を害してしまった。

▶この変更は、tomato の発音を練習するためのものです。アメリカ英語では /təmértou/、イギリス英語では /təmə́:təu/ となります。

Unit 18 / 分詞 (2) 副詞的用法 (分詞構文) ① .....

p.255



- 2) She was watching the movie as she was shedding tears. (change)  
→ She was watching the movie, shedding tears.



- 2) She was watching the film as she was shedding tears. (change)  
→ She was watching the film, shedding tears.

- 4) I always clean my room as I listen to my favorite music. (change)  
→ I always clean my room, listening to my favorite music.



- 4) I always clean my room as I listen to my favourite music. (change)  
→ I always clean my room, listening to my favourite music.

Unit 19 / 分詞 (2) 副詞的用法 (分詞構文) ② .....

p.258



- 4) As she doesn't live in the city, she isn't used to taking the subway.  
(change)  
→ Not living in the city, she isn't used to taking the subway.



- 4) As she doesn't live in the city, she isn't used to taking the underground. (change)  
→ Not living in the city, she isn't used to taking the underground.

▶イギリス英語では、「地下鉄」にはふつう subway ではなく underground や tube が使われます。

p.263



3) As the weather got worse, the audience were directed to the indoor theater. (change)

➔ The weather getting worse, the audience were directed to the indoor theater.

↓

3) As the weather got worse, the audience were directed to the indoor theatre. (change)

➔ The weather getting worse, the audience were directed to the indoor theatre.

▶イギリス英語では、theater を theatre と綴ります (これは発音ではなくスペリングの問題です)。

## [著者紹介]

### 横山雅彦(よこやま・まさひこ)

1964年兵庫県生まれ。京都外国語大学外国語学部英米語学科卒業。東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程修了。現在、関西国際大学国際コミュニケーション学部教授。専門は、地域研究(アメリカ)、英語コミュニケーション論、身体論。著書に、『高校生のための論理思考トレーニング』『「超」入門! 論理トレーニング』(ちくま新書)、『大学受験に強くなる教養講座』『完全独学! 無敵の英語勉強法』『英語バカのすすめ——私はこうして英語を学んだ』(ちくまプリマー新書)などがある。糸東流空手道師範八段。

スピーキングのためのやりなおし英文法<sup>えいぶんぽう</sup>スーパードリル  
英語<sup>えいご</sup>のハノン 初級<sup>しょきゅう</sup> イギリス英語版<sup>えいごばん</sup>

2023年5月10日 初版第一刷発行

著者 横山雅彦  
英文校閲 マイケル・モリソン  
デザイン 永松大剛  
発行者 喜入冬子  
発行所 株式会社筑摩書房  
〒111-8755 東京都台東区蔵前2-5-3  
電話 03-5687-2601(代表)

ISBN 978-4-480-81691-7 C0082 Printed in Japan

©Yokoyama Masahiko 2023

本書をコピー、スキャンング等の方法により無許諾で複製することは、法令に規定された場合を除いて禁止されています。請負業者等の第三者によるデジタル化は一切認められていませんので、ご注意ください。